

博士後期課程・博士論文指導担当

石川 昌紀 教授	学 位：博士（スポーツ科学） <div>University of Jyväskylä</div>
ISHIKAWA Masaki	学問分野：バイオメカニクス
● 研究指導内容	キーワード 競技スポーツ、学校体育
生体ダイナミクス、Stretch-Shortening Cycle、トレーニング、神経科学	
神経・筋メカニクスでは、力学や神経生理学、解剖学などの知識を活用して、スポーツ・身体運動のしくみや身体運動の可能性と限界について探求する。身体運動中の中枢・末梢神経の役割、ダイナミックな身体運動中の骨格筋と神経系の相互作用、トレーニング、疲労、発育発達・加齢に伴う神経筋機能の変化などをテーマとして取り上げていく。巧みな動きの習得方法の開発、運動指導やトレーニングの科学的支援、ケガの予防やリハビリテーション方法といった応用研究に結びつけてゆける力を養うことを目的とする。とくに、中枢神経系の制御プロセス、伸張反射を代表とする末梢神経系のフィードバック、そして腱の弾性を効果的に利用する身体運動の制御プロセスに関するメカニクスの解明に着目する。	

土屋 裕陸 教授	学 位：博士（体育科学） 筑波大学
TSUCHIYA Hironobu	学問分野：スポーツ心理学
● 研究指導内容	キーワード スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育、レジャー・レクリエーション
スポーツカウンセリング、メンタルトレーニング、競技力向上、チームビルディング、実力発揮、スプレスマネジメント	
「スポーツカウンセリング論特講」では、アスリートに対する心理調査や、実際のスポーツカウンセリング事例を検討しながら、理論構築、技法開発等にかかわる実践的な調査研究を行う。また、スポーツカウンセリングにおいて用いられる面接技法やメンタルトレーニング技法、チームビルディングの技法を習得するために、スーパービジョンを伴う現場実習を行う。このように、統計的手法を中心としたスポーツ科学の調査研究と事例研究を中心とした臨床スポーツ心理学の研究に取り組みながら、スポーツカウンセリングの専門家（Scientist-practitioner）としての資質を高める。博士の学位取得と同時にスポーツ心理学会認定「スポーツメンタルトレーニング指導士」資格の取得を目指す。	

富山 浩三 教授	学 位：博士（スポーツ科学） 大阪体育大学
TOMIYAMA Kozo	学問分野：スポーツマネジメント
● 研究指導内容	キーワード スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、レジャー・レクリエーション
スポーツマネジメント、スポーツ行動、スポーツプロモーション	
人々のスポーツへの参画がもたらす効果は、健康作りやストレス解消といった個人的な効果から、現代社会が抱える諸問題の解決に向けた社会的効果へと広がりを見せている。スポーツマネジメント研究室では、スポーツ消費者による「見る」「支える」といったスポーツ消費行動について、マネジメントの視点から分析を行う一方、プロスポーツチームの地域密着戦略や地域活性化のツールとして注目を集めているスポーツと地域、スポーツと都市の関係、スポーツツーリズムについて研究を行う。スポーツまちづくりやスポーツ推進は、スポーツ政策とも深く関わっており、スポーツ基本法とスポーツ基本計画なども研究テーマとなる。	

浜田 拓 教授	学 位：博士（人間・環境学） 京都大学
HAMADA Taku	学問分野：スポーツ生理学
● 研究指導内容	キーワード 競技スポーツ、健康スポーツ
運動、トレーニング、骨格筋・脳、糖・脂質・乳酸代謝、ミトコンドリア、遺伝子、栄養	
主な研究テーマは運動による骨格筋と脳のエネルギー代謝適応効果である。運動生化学特講では、一回の急性運動による生体の迅速な代謝適応や慢性的な身体トレーニングによる代謝適応の効果とその機序に関する研究に着目し、生理・生化学的ならびに分子生物学的手法を用いて解明していく。特に、骨格筋と脳は、体内最大のエネルギー消費の主要な標的臓器であり、骨格筋や脳における代謝機能の不全是、生活習慣病の発症や認知機能の低下に関連する。そのため、本特講では骨格筋と脳に着目して、研究テーマを決定していく。ヒトから動物実験までを対象として、運動が生体のエネルギー代謝機能を高める効果とその機序を中心に分子レベルで検証していくことで、生活習慣病や認知症の予防、中高齢者の健康増進における運動プログラムの開発に繋げていく。	

前島 悦子 教授	学 位：博士（医学） 和歌山県立医科大学
MAESHIMA Etsuko	学問分野：スポーツ医学
● 研究指導内容	キーワード 競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育
スポーツ医学、中高齢者、生活習慣病、運動療法	
「スポーツ医学」領域は、競技スポーツだけでなく、健康維持、増進のための健康スポーツや疾病の予防・治療のための運動療法などを含む。このスポーツ医学領域の中でも、スポーツをする際や指導する際に重要な内科学領域の医学的知識全般を学ぶ。得られた知識を基に、子どもや女性、中高齢者などを対象に、体力の維持、増進を目的とした運動指導を実践し、その中から、問題点や疑問点を明らかにする。この問題点や疑問点の中から学生が研究テーマを決定し、その課題に取り組み、論文を作成する。この一連の学習過程を通して、社会の様々なニーズに応えられる指導者を育成する。	

下河内 洋平 教授	学 位：博士（運動・スポーツ科学） <div>University of North Carolina at Greensboro</div>
SHIMOKOCHI Yohei	学問分野：バイオメカニクス
● 研究指導内容	キーワード 競技スポーツ、健康スポーツ
スポーツ医学、スポーツ障害・外傷予防、トレーニング、アスレティックリハビリテーション	
急激な減速・加速動作を頻繁に行う球技などのスポーツでは、大きな負荷が選手の身体にかかりやすく、急性外傷や慢性障害が多く発生します。そのようなスポーツ選手の身体づくりにおいては、ただ単に力やパワー発揮能力の向上を図るだけでなく、スポーツ傷害を予防することが大きな課題となります。本研究室では、パフォーマンス向上とスポーツ傷害予防のための身体づくりの共通点と非共通点を明らかにすることを目標に、1）スポーツ傷害発生メカニズムの解明、2）スポーツ傷害の予防方法の開発や予防メカニズムの解明、3）力・パワー発揮能力およびその向上に影響を与える要因の解明、4）スポーツ傷害を予防し、且つ、パフォーマンス向上につながる合理的な動作や神経筋制御様式の解明などを、テーマとして研究活動を行っています。（研究室ホームページ：https://www.shimokochi.jp/）	

徳山 友 准教授	学 位：博士（Sport Administration） University of Louisville
TOKUYAMA Tomo	学問分野：スポーツマネジメント
● 研究指導内容	キーワード 競技スポーツ、健康スポーツ、レジャー・レクリエーション
スポーツビジネスマネジメント、スポーツ消費者行動、マーケットセグメンテーション	
スポーツを産業としてとらえる際に必要な視点として「スポーツを商品として考える」がある。つまり商品であるスポーツを消費する「スポーツ消費者」の理解は不可欠となる。多様化する消費者のニーズや特性を把握したうえで（スポーツ消費者行動）潜在マーケットの分析をもとに顧客グループを細分化し（セグメンテーション）、的確なターゲット顧客の選定（ターゲティング）がスポーツにおいてもビジネスの成功に大きく影響する。この一連のプロセスはマーケティング全体の基礎部分であり、後に続くマーケティングプラン立案の指標となることから重要なプロセスである。したがって、本研究室ではビジネスの視点でスポーツをとらえ、これらのプロセス（スポーツ消費者行動・セグメンテーション・ターゲティング）を研究のテーマとし、理論と実践をもとに研究を進めていく。	

橋本 祐介 教授	学 位：博士（医学） 大阪市立大学
HASHIMOTO Yusuke	学問分野：スポーツ医学
● 研究指導内容	キーワード 競技スポーツ、健康スポーツ
スポーツ医学、スポーツ整形外科、靱帯、軟骨、半月板損傷	
スポーツ現場で多く発生するスポーツ外傷・障害は選手生命を左右することもあり、適切な診断、治療と正確なスポーツ復帰への道筋を立てることが重要です。よって、スポーツ外傷・障害のメカニズムを理解し、その治療選択の意味を踏まえて、治療後の後療法の計画をする必要があります。また医療が終了した後のスポーツ現場復帰するためのプランを立てていく必要があります。当研究室では、様々な臨床症例を詳細に検討し、現在行われている手術、保存治療方法の問題点を抽出します。その過程で得られた知見を基に新たな治療、トレーニング、評価方法を開発し、その効果を検証していきます。もう一つの観点としてスポーツはアスリートだけのものではなく、健康増進、健康寿命延伸のために大切な要素です。膝痛があるとスポーツが出来なくなり、大きな障害となります。当研究室では膝軟骨損傷、変形性膝関節症に対して詳細な画像診断、血清学的検査などを用いて日常生活活動度との関連を調べ、個々の最適な運動を検索する研究をしています。	

平川 武仁 教授	学 位：博士（体育科学） 筑波大学
HIRAKAWA Takehito	学問分野：スポーツ心理学
● 研究指導内容	キーワード スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育、レジャー・レクリエーション
知覚運動制御、運動学習、非線形力学系理論、計算理論、視覚情報処理、状況判断	
スポーツでプレーするとき、選手は主に視覚、聴覚、運動感覚を頼りにして、身体を合目的に制御する。特に、熟練選手は、日頃の努力によって、プレー時の合目的な動作や視線行動を獲得する。さらに彼らは、他の熟練者との動作の違いや対戦相手の動作・行動を見抜く、眼のつけどころが優れている。これは熟練者が合理的・経済的な運動制御と眼球運動を獲得し、プレーに必要とされる身体運動を理解していることを示している。スポーツ心理学の中でも知覚運動制御に関する研究は、未熟練者と熟練者の眼球運動や巧みな動作の違い、そして心理的な異同を検討する。また運動学習の研究は、巧みさを獲得する過程と、獲得過程に伴う心理的な変容過程を実証的に検討する。担当する授業や本研究室の取り組みでは、上記のスポーツ選手だけでなく、幼年から高齢者までの発達差や学校体育での運動習得なども幅広く研究の対象とし、スポーツ現場から実験室測定まで様々な環境で、非線形力学系理論（力学系アプローチ）と計算理論（計算論的アプローチ）に依拠して、人間の運動を検討していく。	

〔研究領域・学問分野表〕

本大学院では学生が受験・師事する際に、学問分野と研究領域をもとに、より具体的に選択できるようにしています。

■**博士後期課程:博士論文指導担当**　■**博士前期課程:修士論文指導担当**　※博士後期課程担当者は全員博士前期課程・修士論文指導も担当します。

		研究領域				
		スポーツ文化	競技スポーツ	健康スポーツ	学校体育	レジャー・レクリエーション
文化・社会科学領域	保健・体育科教育学	—	小林	小林	小林・浜上	—
	スポーツ史・哲学	中房・森田	曾根・中房・森田	—	中房・森田	—
	スポーツ社会学	中山	中山	中山	—	中山
	スポーツマネジメント	富山・原田	富山・徳山 藤本	富山・徳山 原田・藤本	—	富山・徳山 伊原・原田・藤本
	スポーツ心理学	土屋・平川 小菅・手塚	土屋・平川 小菅・菅生・手塚	土屋・平川 菅生・手塚	土屋・平川 手塚	土屋・平川 手塚
	アダプテッド・スポーツ	植木・竹内	植木・竹内	植木・竹内	植木・竹内	植木・竹内
	バイオメカニクス	—	石川・下河内 尾関・神崎・貴嶋・藤原	下河内 貴嶋	石川 貴嶋・高本	—
教授学（指導方法学）	神崎・白井	尾関・神崎・曾根 高本・藤原・宮地	神崎・貴嶋・白井	神崎・貴嶋 白井・高本	伊原	
スポーツ生理学	—	浜田 足立・三島	浜田 足立・三島	—	—	
スポーツ医学	—	前島・橋本	前島・橋本	前島	—	
スポーツ栄養学	—	近藤	近藤	—	—	

◆ 大学院の履修課程 ◆

スポーツ科学研究科
スポーツ科学専攻

博士前期課程（2年・修士）	科学的スポーツ実践者の育成	<input type="radio"/> スポーツ科学理論と応用的方法論の修得	
〔共通科目〕			
●スポーツ科学統計(1)(2)	●武道学習論 特論・特論演習	●感情スポーツ心理学 特論・特論演習	●保健体育教材設計 特論
●スポーツマネジメント論 特論・特論演習	●保健体育科教育学 特論・特論演習	●スポーツリーダーシップ論 特論・特論演習	●Academic English for Sport Sciences(Basic)
●スポーツマネジメント実践論 特論ⅠⅡ	●体育授業づくり 特論・特論演習	●スポーツ心理学実践論 特論(1)(2)	●スポーツ科学特論A
●グローバルスポーツマネジメント 特論	●スポーツバイオメカニクス 特論・特論演習	●身体表現学 特論・特論演習	●スポーツ科学特論B
●スポーツマーケティング論 特論・特論演習	●神経・筋メカニクス 特論・特論演習	●発育発達論 特論・特論演習臨床	●スポーツ科学セミナー
●スポーツスポンサーシップ論 特論	●臨床バイオメカニクス 特論・特論演習	●臨床スポーツ医学 特論・特講演習	●スポーツ科学研究
●冒険教育 特論・特論演習	●スポーツコーチング論 特論・特論演習	●健康管理論 特論・特論演習	●スポーツコーチング実践特論
●スポーツビジネス 特論・特論演習	●トレーニング科学 特論・特論演習	●スポーツ生理学 特論・特論演習	●スポーツコーチング実践演習
●スポーツまちづくり論 特論・特論演習	●競泳科学 特論・特論演習	●スポーツ栄養学 特論・特講演習	●スポーツコーチング実践実習Ⅰ
●スポーツ社会学 特論・特論演習	●運動学 特論・特論演習	●運動生化学 特論・特論演習	●スポーツコーチング実践実習Ⅱ
●スポーツ史 特論・特論演習	●球技パフォーマンス分析論 特論・特論演習	●体育・保健授業づくり実践実習ⅠⅡ	
●体育・スポーツ哲学 特論・特論演習	●スポーツカウンセリング論 特論・特論演習	●体育・保健授業づくり実践指導実習	
●アダプテッド・スポーツ科学 特論・特論演習	●スポーツ心理学 特論・特論演習	●授業観察評価法 特論	
●リハビリテーション 特論・特論演習	●臨床スポーツ心理学 特論・特論演習		
			〔総合科目〕
			●インタナシッパ(1)(2)
			●実験実習(実験・調査・測定)(1)(2)
			※各特論演習:(1)(2)(3)(4)

博士後期課程（3年・博士）	創造的・科学的専門家の育成	<input type="radio"/> スポーツ科学の理論構築と創造的方法論の開発	
〔共通科目〕			
●神経・筋メカニクス 特講・特講演習	●臨床スポーツ医学 特講・特講演習	●スポーツ科学研究論 特講	●スポーツ生理学 特講
●臨床バイオメカニクス 特講・特講演習	●運動生化学 特講・特講演習	●スポーツマーケティング論 特講	●Academic English for Sport Sciences
●スポーツカウンセリング論 特講・特講演習	●スポーツマネジメント論 特講・特講演習	●スポーツリーダーシップ論 特講	●表現運動学特講
●臨床内科スポーツ医学 特講・特講演習	●スポーツビジネス 特講・特講演習	●スポーツ心理学 特講・特講演習	※各特講演習:(1)(2)(3)(4)(5)(6)

